
関連施設

田上診療所

訪問看護ステーション野の花・訪問リハビリ

わらび苑

院内保育所

田上診療所

医事課 平山 さおり

診療所は、院長の竹野先生を中心に事務長、看護師長、看護師6名、受付2名、リハビリ（物療）4名の計12名の職員が勤務しております。

診療科は、内科・循環器科・皮膚科・小児科・整形外科が有り、本院に劣らず、様々な診療が行えるようになっております。

小児科の診療が開始されてからは、今まで中種子、南種子の方は西之表の本院まで行っていた予防接種が出来るようになったり、皮膚科の瀬戸山先生がいらしてからは、診療日が増えより多くの方の診療を行えるようになったりと、地域に貢献した医療を提供できているのではないかと思います。

実際に私は受付業務をしていましたが、直接患者様から”予防接種ができるようになって良かった””遠い所まで行かなくても近くで診てもらえるようになって良かった”などの言葉をかけて頂ける事が多々ありました。

診療所に来てくださっている先生方も、優しく、気さくで話しやすい先生方で、患者様だけではなく職員からも人気で信頼されている方ばかりです。そのおかげで、職員も仕事に真面目に取り組む反面、先生方と話をしながら仕事も楽しんで行うことができます。

以上の事からも分かるように、田上診療所は、先生、職員との距離が近く信頼関係も築けている

と思うので、何かありましたら気軽に声をかけて頂ければと思います。

そして最後に、私事ですが、約10年間務めた田上診療所を4月30日をもって退職しました。先生方や診療所の職員の皆様には大変お世話になりました。最後の最後までたくさんの迷惑をかけてしまいましたが、いつも温かく”大丈夫”だよと声をかけていただいた事が嬉しかったです。笑顔の絶えない診療所が大好きでした。

また、種子島医療センター勤務時にお世話になった、寛容先生をはじめ医事課長、医事課の皆さん、外来スタッフの皆さんと働いたことも感謝しております。

本当に有難うございました。

訪問看護ステーション 野の花

師長 平園 和美



管理者／平園和美
 看護職員／鳥巢良子、北蘭ゆかり、荒木舞
 作業療法士／濱添信人
 理学療法士／坂口淑子、田野瀬幸香、上妻直人
 言語聴覚士／松尾あやの、壽山博哉
 事務職員／長野さゆり

【 理念 】

私たちは、思いやりの心と技術を研鑽する真摯な姿勢で、住み慣れたお家や地域で安心してすごせるように健康管理や日常生活の支援に努めます。

【利用者数】

訪問看護 48名
 リハビリ 72名 (H30. 5. 31現在)

今年4月に診療報酬・介護報酬のダブル改正がありました。国の医療政策として、在院日数の短縮に加えて、2025年時点の病床数を現在よりも16～20万床減らす目標を示しており、手厚い医療を必要としない人は、自宅や介護施設での療養に切り替えていく方針のようです。それに伴って、今後はさらに在宅医療や介護の需要が拡大していき、その受け皿として訪問診療や訪問看護が必要となってきます。

利用者のニーズに応え、H28年9月に訪問看護の一環としてリハビリが介入するよ

うになり、障害や寝たきり状態で通院でのリハビリが困難な方へ訪問リハビリを行っています。島内全域を訪問しており、需要も多く、新規利用者も年々増加しています。看護師による訪問においては、いつでも緊急の対応が出来るように24時間連絡体制をとっています。在宅で最期を迎えたい、在宅で看取りたいという方も増えており、H29年度の在宅看取りは8件と年々増加傾向にあります。

在宅で看取れなくても、ギリギリまで住み慣れた家で過ごし、病院で看取るケースも多々あります。利用者のニーズに応え、現在は中種子町まで訪問をしています。

これからは、病院、他職種との連携はもちろんのこと、島内の訪問看護ステーションとの連携を図り、島民の皆さまが安心して在宅で過ごせるようにサポートしていきたいと思っています。

介護老人保健施設 わらび苑

施設長 医師 猿渡 邦彦

一捜していた女性が居た！

NPO 法人 cosmo 有難うー

平成 29 年 4 月よりわらび苑勤務となり、30 年 3 月勤務終了しました。その時の印象を書いてみます。29 年 3 月前施設長が辞められ空席となったため、自らの希望もありました。

それは医療センターにはわらび苑で過去に働いた事のある人達が“わらび苑は良い所”と言っていたので希望したわけです。この苑の初代の施設長は私が尊敬していた、故阿世知先生でもあり（この先生は私が鹿児島大学皮膚科教室に入局した時は泌尿器科の助教授をされておられ、当時は皮膚科、泌尿器科は同じ部屋を医局としていたため、いろいろ御指導いただいた先生でもありました。）それと平成 29 年 4 月が、私が医者になってから丁度 51 年目を迎える月でもあり、何かの縁を感じたものでした。ところが初出勤の日（前日、飯田君から教えられた）道を行ったはずですが、間違え、島の中央に行っておりやっとの事で辿り着きました。まず、正門みたいな所を見て驚きました。セイタカアワダチ草がわらび苑と書いてある白い看板の 1/3 を覆っていました。そして道路添いの側溝には雑草が垂れ下がり、また背の高い茅もひとつのかたまりを作り、点々と生えていて垣根のツツジ類には元気の良い蔓が這い廻っておりました。門を左折すると両側にはツツジを主とする植栽が植えられていましたが、その地面は雑草で覆われ土の面は見えませんが、約 100 m に亘り蔦、蔓で覆われ、取り去るまでは、コンクリートの塀とはわかりませんでした。それは北側のコンクリート塀も同様でした。苑に入った瞬間、これはトンデモない所へ

来てしまったと後悔しました。玄関に入ってからのは、建物外の状況を綴ったあとに書くとして、もう少し外観を書いてみます。苑の敷地内を廻ってみました。苑の敷地は広く、メインの植栽の後方には藪があります。

ところが、そこに入ってみると夥しい数の植木鉢、ペットボトル、ビニール、驚いたのは 5 m 四方のビニールシートがあり、その上には雑草が生い茂り、1ヶ所にはシートの下から木が生えており、年輪を数えると 12 年経っておりました。この場所は 12 年も放置されていたわけです。その他、壊れたベッド、机、室外器、シャーカステン（さすがにこれは 1ヶだけ）が複数ヶ出てきました。金になる金物も多数ありました。業者に集めてもらいましたが、中型トラック 2 台分ありました。まさに廃棄置場でした。また苑の主庭である東側には（26 年前には凄い庭園であつたろう事が想像できる様な庭でした）まず、地を肥やしその回りには立派な植木を植していたものと考えられる大きな切り株が点々としていました。これは枯死したために伐採したものと思われます。今でも大きな梅の木が 5 本残っておりますが枯死寸前です。池はすでに埋め戻され、あの根強いカヤの草原と化しておりました。まずこの池の茅を根こそぎ取り去るつもりで鍬で耕し取り始めた所、1 時間もすると熱中症の前状態となり、結局、池の 1/4 のところで中止せざるを得なくなり、今（5 月、6 月）もそのままの状態です。その後は、これより労働力の軽い、周囲の塀の部分を整理しました。とにかく 1 年かかって全周を整理する予定でしたが、あと 1/5 を残し、わらび苑を退職となった次第です。そして中に入ってびっくりしたのは、苑には建物の間に 1ヶ所中庭があり

ます。食道に面しているのですが、まったくの草の森で対面を見通せない有様でした。よくもこんな状態を放置できるなと思いましたが、職員は毎日の業務に追われ、とても草取りまで頼める様な状況ではありませんでした。事務長にお金はないのかと聞くと“ない”とつれない返事。しかし、このままではわらび苑の庭園は廃墟となると考え、お金は本部に任せる事を勝手に決め、私がこの1年やって来た事を説明し、シルバーセンターにお願いに行きましたが、“その様な作業はできません”とあっさり断られて途方にくれていた時、コスモの内山君と知り合いになり彼が私の想いを理解してくれ、NPO コスモの松岡代表に相談してくれ、この4月からわらび苑の管理（庭園のみ）をしてくれる事になり非常に安心しました。さて、目茶苦茶な外観にあきれ果て、本当にトンデモない所に来てしまったと思っていたのですが、建物の内に足を踏み入れたところ、とにかく床がキレイ！これには吃驚しました。また職員の動きも良い！これは最初に出会ったのが通所の松原さん（後日、名前は判明）だったのが印象的に残っていたと思います。小柄な体で、とにかく歩くのが早く、いわゆるテキパキとしているという表現がピッタリ。内と外では雲泥の差！非常に安心感を覚えました。そして、もっと嬉しいことがありました。それは私は3年前から田上病院に勤めるようになったのですが、義福の職員で、時々病院でも見かけて密かに好みの女性だなあと思っていた人がわらび苑に居てくれた事です。まあ私の好みの人物とは、第一に女性である事、2つ目は胸とお尻が大きい事、3つ目は目が細いことで片よっています。そしてもっと嬉しい事の第2弾！それは、3年前発行の飛魚に“田上病院に奉仕して”の題

で載せていただいた文章の中にも書いておりますが、それは高校卒業と共に別離し（特につき合っていた訳ではなく秘かな私の恋心）に至った女性にソックリな人を病院エレベーター B2 入口で見かけ、その後丸2年出会う事もなかった人がわらび苑のパート職員として働いているのではないですか！あの3年前、田上病院初出勤の日に一瞬出会った人が居ました。75歳の爺ながらうれしかったです。この2人（義福の人、わらび苑の人）を見かけるのが楽しみであった1年間でした。特に医者としての仕事をした1年という印象はありませんでした。

院内保育所

主任 大木 鈴香

主任／大木鈴香

徳永純子、新原祐子、鮫島めぐみ、
神田順子、中村智美

活動紹介

保育所では、0から2歳の子どもを中心に24時間保育を行っています。

年齢に合わせて、さまざまな活動や遊びを経験したり、食事やマナー、排泄等を練習したり学んだりしています。0歳児は、安心して快適に過ごせるように、そして、手を動かしたり目で追ったり、寝返りしたり、のびのびと動ける環境を心掛けています。1歳になると、いろいろな事に興味を持ち、自分でやってみようとしています。ご飯

を自分で食べようとするのも、そのひとつです。こぼす量も多く大変な事になりますが、楽しく食事が出来るよう、ゆっくりのんびり見守るようにしています。2歳前後になると、お話、食事、トイレ、お着替えなど出来る事が増え、もうお手伝いのプロです。小さい子のオムツを持ってきてくれたり、鼻水を拭いてくれたり、小さな先生です。お友達に優しくできる心が育ってくれたらと思っています。

職員一同、子ども達が元気に安全に過ごす事が出来るように、保護者が安心して仕事出来るように頑張っていきます。

